

私は、埼玉親善大使として 7/13 から 7/24 までの期間、埼玉県の姉妹友好州であるブランデンブルグ州を訪問しました。ブランデンブルグ州は州都をポツダムとし、ドイツの首都ベルリンを取り囲むように位置するヨーロッパ有数のウォータースポーツエリアです。今回私たちはブランデンブルグ州政府訪問に加え、ワールドストリートサッカーチャンピオンシップというプログラムに参加しました。このプログラムは、ドイツサッカーリーグが主催したストリートサッカーを通じた国際交流イベントで、試合に審判はつかず、通常のサッカーよりもさらに選手間のコミュニケーションが重要となるものです。このような国際交流プログラムには以前から興味があり、さらにサッカーの経験があった私たちにはこれ以上ない貴重な経験となりました。また、ブランデンブルグ州の各地を訪問する間に日本とドイツの文化の違いやドイツ特有の雰囲気や人間性を感じることができたことも非常に大切な経験でした。

約 13 時間のフライトを終えドイツへ到着してからは、初めて降りた土地への興奮と感動が隠せませんでした。ホテルのあるコトブスへ向かう途中での車窓から見た景色や、一般道で 100 km を超えるスピードで走行する車などを目の当たりにした時の衝撃は初日であったこともあり今でも覚えています。翌日はプロも利用されると言われているスポーツ施設を見学し、インストラクターの方からその施設についての説明を受けました。施設内は非常に広く、サッカー場だけではなく様々なスポーツのトレーニングができるような造りとなっていました。そして施設内のサッカー場でワールドストリートサッカーチャンピオンシップに向けた練習を行いました。その後 Seezeichen am Ostsee という展望台に登り、そこから周辺地域を一望し、そこでもまたドイツの街並みを実感することができました。昼食を終え 2 時間ほどのクルージングに参加した後、州のスポーツ関係の代表の方へ挨拶をしに伺いました。また、当日がロシアワールドカップの 3 位決定戦であったこともあり、彼らとともに観戦することができました。今回のプログラムで私たちをガイドしてくださった方がベルギーにルーツがあったこともあり、非常にいい雰囲気で過ごすことができました。また、ベルリンの市街地を見学することもできました。観光地以外の街を歩くことでその国民の雰囲気や街並みをより身近に感じることができ、短時間の行動であってもドイツという国を一番身近に感じられた時間だったかもしれません。3 日目からはポツダムに移動しました。ホテルからすぐ見えたオランダ街は、ほかの街並みとはまた違った独特な空気が流れていました。そして今回の目的のひとつである州政府を訪問しました。建造物は見た目も中身も他のものと比べて豪華な装飾や内装になっており、一味違う体験をすることができました。その案内をさせていただいた日本人のガイドさんはドイツ語が非常に流暢で、私の語学力の向上に対する気持ちにも火をつけてくれました。FILM PARK という映画の撮影現場をイメージしたテーマパークにも案内していただき、海外の娯楽を自分自身で体験することができたことはとても幸運でした。ポツダム最終日には、サンサーシー宮殿という世界遺産を見学することもできました。装飾や色使いからも歴史を感じ、見学している時間があっという間に感じました。ポツダムとコトブスを堪能させていただいた後、5 日目に突入した

ところで、ついにワールドストリートサッカーチャンピオンシップが開催されるプローラへ向かいました。プローラは私たちが着いた頃にはすでにお祭りのような雰囲気を醸し出しており、長時間による移動の疲れを全く感じないほど素晴らしいムードが漂っていました。ホステルの部屋へ向かうと隣の部屋にはチリから来たサッカーチームのメンバーがチェックインしており、一気に緊張感が高まるとともに興奮したことを覚えています。ホステルの目の前はビーチになっており、私たちが見に行ったところで、カナダのチームに出会いました。彼らは非常にフレンドリーで、私たちのことをすぐに受け入れてくれたため、もし彼らが偶然性格の良い人たちだったとしても、カナダという国が好きになりました。このような感情を抱いてから、私たちも積極的に他国のチームと交流し楽しむことで、相手に日本のことを好きになってもらえるのでは、日本に興味を持ってもらえるのでは、と感じました。その体験がこの後の行動に影響しました。おそらく、このような形でカナダチームとコミュニケーションをとることがなければ、私たちは今回のプログラムを最高の形で経験することはできなかったのではないかと考えます。その翌日からは、ワールドストリートサッカーチャンピオンシップが始まり、様々な国から来た人々と接する機会が急増しました。大会中に使用される言語はもちろん英語で、留学経験のない私にとって、今までで一番英語が身近になった機会となりました。最終的に、男子チームは決勝トーナメント初戦敗退、女子チームは準決勝敗退という結果になったものの、本プログラムを通じて得たものは、今までにないほど貴重で、素晴らしいものとなりました。

今回のプログラムでは埼玉親善大使として、ブランデンブルグ州を訪れ、日本の日常からかけ離れた生活を体験できた上に、日常的に英語を使う機会を設けていただいたことを非常にうれしく思います。日本にいては絶対に感じることはできない感情を抱いたり、他国の人々の考え方や国民性を身を以って体験できたことは、私の記憶に深く刻まれることに間違いありません。帰国後も、外国語学習のモチベーションになり、人との接し方、相手の考えなど、今まで考えもしなかったことも意識できるようになり、人として一回り成長できたと思います。選考時に言った通り、サッカーと国際交流に関心がある私たちにとって、このプログラムは最高に充実したものとなりました。改めて、今回のプログラムに参加できたことを誇りに思います。

中島大雅